

幣七百十圓に引越す邊に之を如何に
 用途に消すか之を同じくは向ふ其地流に
 範一、事務終了後格文作及出度二等
 を除く外詳細の共々此の如きもの
 様様にして極力之内信するもの
 由り、昨年製鉄所が二輪鋼工場に
 移るに記録を北條閣に同日工場の組織
 せし格高層等計の勤めは先ん際自心
 度、増費の生計に因りて金算の
 二

（昭和十一年）

方う本條の哀然と云ふも、本條は其の由り
 ともか此等十月一號發行の整理ノ際北條閣
 取已のトキニテリといふ事、此の邊に
 又回収スルコト始にハリシナリ
 残リニハ、同月、芳澤氏表辭、向トシテ
 中ノ主筆中田末三郎、融通シテ、
 然、自心ノ生活物ノ如ク、先
 知ヤリ恩賜セリ
 三、會計調査